繊維学会の新しい企画について

New Planning from The Society of Fiber and Textile Science, Japan

保 城 秀 樹

伝統ある繊維学会の副会長(企画委員長)に任命され、責任を負うことになりました。これからの2年間、木村良晴会長のもとで、先進的な繊維学会にしてゆく方策を模索したいと思います。繊維学会の企画についての現状と今後の展望について述べさせていただきます。

繊維業界は、中国の飛躍的な躍進によって、汎用合成繊維並びに製品の輸入が年々急増し、合成繊維の国内生産量は大きく落ち込み、業界自体が益々疲弊している状態です。リーマンショックや円高の影響が更にダブルパンチで業界を苦しめて、繊維関連メーカーは生き残りのために何をすべきか、各企業が苦しみ中で、繊維学会の果たす役割は、益々重要度を増しています。経済産業省が本年4月26日に公表した『今後の繊維・ファッション産業のあり方に関する研究会』報告書にあるように、この厳しい現状を打破するには、①トップランナー分野(ナノファイバー、炭素繊維等)の維持・強化、②繊維素材・技術の適用を衣料以外の幅広い産業(例：環境や健康分野他)に広げて、繊維の市場拡大を図る。③国際標準(高性能・機能性繊維)をリードする。④産官学連携、並びに川下企業とのコラボレーションによる製品開発・使途拡大を進めてゆくことが当面の目標です。繊維学会として、活力ある企画や提案を業界に発信してゆきたいと思います。

繊維学会の新しい企画について

*繊維学会基礎講座(2010.3.11 東レ三島研究所にて実施)

繊維学会では毎年、企業の新入社員や新しく繊維関係に携わられる方、また学部学生、院生に対して、繊維の製造(紡糸、紡績)、加工(織・編み、染色)、評価までの基礎知識を一貫して理解していただくために繊維基礎講座を開催しています。本講座ではナノファイバーや最先端の評価技術など最新の繊維科学に関するトピックスも織り込み、初日には講師との交流会も開催しています。国をあげて『クールジャパンの潜在力を経済成長に』と言われている中で、今後は、ファッション、アパレルメーカーの方々へも素材に対する知見を深めていただくことがグローバル展開には重要と考えています。

HIDEKI HOSHIRO (Ph.D.)

(株)クラレ 繊維カンパニー 繊維素材企画開発部部長

繊維学会 副会長(企画委員長)

E-mail: Hideki_Hoshiro@kuraray.co.jp

〈専門〉高分子構造、複合材料

〈趣味〉旅行、アンティーク収集

*繊維学会応用講座

11月18日に日本女子大学で『EVで変わる生活、そして繊維材料』の題名で、電気自動車(EV)に関する講演会を開催しました。リチウムイオン電池、炭素繊維コンポジット、エコタイヤ、そして各自動車メーカーによるEVの御講演は、約140人が聴講され、大変好評でした。単に情報提供にとどまらず、研究者として、悪魔の川、死の谷、ダーウィンの海をいかに超えるかという旭化成吉野室長のお話は、開発の誰もが直面する大きな課題であり、多くの方がその講演に感銘を受けられました。平成23年1月27日開催予定の『最新の繊維技術レビュー』でも、水処理や原子力等先端成長産業をテーマとして取り上げ、参加者の皆様に新しい開発テーマや先端市場へのビジネスチャンスを提供してゆきたいと思います。

*2011 学術ミキサー

平成23年1月20日に、『学術ミキサー』を東京大学弥生講堂アネックス『セイホクギャラリー』にて開催します(<http://www.fiber.or.jp/Events/2011/110120.html>)。産官学の緊密な連携、並びに協力が重要な時代と言われるなかで、繊維学会が主催し、政府関連機関、大学、研究機関の先生方と、繊維学会維持会員及び賛助会員企業、並びに関連団体の方々との間での情報交換の場として、また、繊維関連の学術と産業について展望したいと存じます。宮田清蔵先生(東京農工大学 前学長)をお招きして話題提供を頂くとともに、政府機関、研究所や大学の研究御紹介パネルを展示し、交流の場を設けたいと思います。

*若手研究会&女性による研究会

繊維学部のある大学が減り、繊維関連の研究者が減っていること。また企業でも若手繊維研究者が減少しているために、繊維学会員数が減少し、高齢化が進んでいます。新しい時代を作り出す若手研究員を産官学で広く集め、新たな取り組みの模索を始めたいと思います。研究委員会の中に、若手研究員の交流の場を設置、海外クラスターとの積極的な交流や海外研究会への派遣、若手研究者の企画による研究発表会等です。また、『クールジャパン』を最も実感できるのは、時代の流行を素早く察知できる若き女性達であり、女性による女性のための研究会によって、『クールジャパン』を学会活動から創設して行きたいと思います。

伝統ある繊維学会ですが、時代の流れと共にその組織の有り方、運営を変え、時代が要求する学会に形を変えて、新しい企画を提案することが重要です。国内だけでなく、世界からも注目されるきらりと光る学会を目指したいと思います。